

都有施設だより 第9号

都有施設の維持管理などの取組についてお知らせします。

都有施設の計画的な維持管理・更新、都の施策を反映した都有施設の機能・性能のレベルアップなどの取組についてお知らせしていきます。

～今回は、都有建築物の維持更新等に関する2つの取組をご紹介します～

<特別支援学校の改築・統合 ～都立花畑学園改築工事～>

都立花畑学園は、隣り合う敷地に位置する旧城北特別支援学校（肢体不自由校）と旧南花畑特別支援学校（知的障害校）の2校を発展的に統合し、令和2年度に肢体不自由教育部門と知的障害教育部門を併置した学校として開校しました。



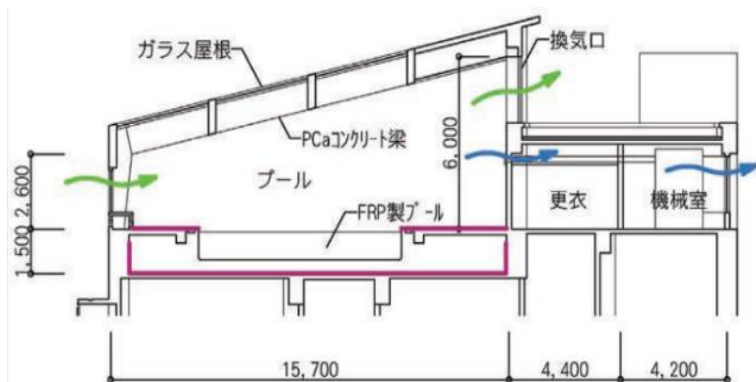
東側より校舎を臨む（改築工事後）

児童・生徒の負担軽減に繋がる整備手法

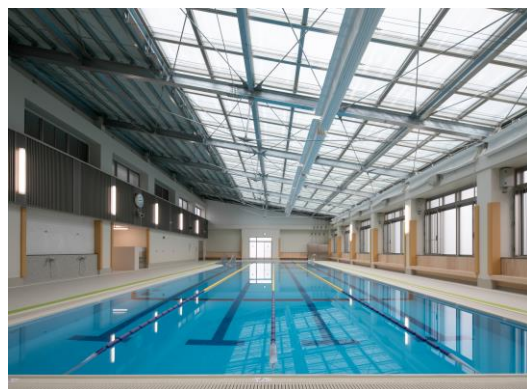
今回の改築工事では、施設の運営を継続しながら統合するため、反転改築の手法を用いました。この手法は、利用者にとって通い慣れた校舎を使い続けることができることや新校舎への引越しが1回で済むため、環境変化が少なく、児童・生徒にとって負担が少ないなどのメリットがあります。

環境負荷低減の取組

プールは、体温調整の難しい児童・生徒のために屋内に設置していますが、設備負荷が過大になるため、環境負荷低減の取組により設備負荷の大幅な低減を図っています。具体的には、屋根はガラス屋根とし、太陽熱をプール水の温度上昇に利用しています。さらに、温度差換気による換気を促し、室内温度の適正化を図るとともに、雨天時には、通風口から外気を導入し、排気ファンにて換気を行えるシステムを導入しています。



【断面図】 プール換気ルート（緑：自然換気、青：機械換気）



プール完成写真

<畜産施設の再編整備 ～青梅畜産センター改築工事～>

青梅畜産センターでは、トウキョウX、東京しゃも、東京うこっけいといったブランド畜産物の種畜の生産・配付、畜産農家への技術指導など様々な事業を実施してきました。

その施設の大部分は、1980年代に建築され、畜舎設備等の老朽化対応とともに家畜伝染病に対するより一層の防疫体制強化を図ることが必要となっています。

こうした状況を踏まえ、2019年から再編整備を開始し、施設の改築工事を実施しています。

なお、豚舎・鶏舎の改築工事は終了し、令和3年5月から順次、新たな豚舎・鶏舎へ移動を行い、新施設における生産・配付作業を開始しています。



改築工事後の施設（全景）

家畜伝染病の発生防止と周辺環境への配慮

衛生管理区域の周りに伝染病発生の要因となる野生動物等の侵入防止を考慮したフェンスを設置するとともに、畜舎を完全密閉式のウインドレスにすることで、伝染病予防や飼養環境の改善、悪臭防止を実現しています。

また、病原体の持ち込みを防止し、高度な衛生レベルを確保するため、職員や物品の動線を分離するとともに、職員等のシャワーインや専用衣服の導入、外部から持ち込む物品を紫外線殺菌するためのパスボックスを設置しています。さらに、畜舎内の衛生環境を良好に保つため、高圧洗浄用配管なども設置しています。



フェンスの設置



ウインドレスの畜舎

アニマルウェルフェアへの配慮と生産効率の向上

アニマルウェルフェアに配慮した飼養環境を整備し、生産効率の向上を図るため、畜舎壁面に夏場の暑熱対策として流水で空気を冷やすクーリングパットや床暖房などを利用した温度調節付きの畜舎や母豚の自由な行動を妨げることなく適切な管理が可能となる母豚群管理システムなどを導入しています。

また、鶏舎では鶏の健康を考慮し、自由に動けるサイズのケージを導入するとともに、採光用の窓を設けず、ウインドレス構造で照明時間や光度が正確にコントロールされる照明などを設置しています。



畜舎壁面にクーリングパット



豚舎の母豚群管理システム



鶏舎の光線管理